JSPNM
Japan Society of Perinatal and Neonatal Medicine

FAOPS 2018 Philippines
参加報告

一般社団法人
日本周産期・新生児医学会

FAOPS 2018を終えて

FAOPS 2018 Philippines大会は、2018年９月23日から26日、Philippine ManilaのThe Manila Hotelで開かれました。日本周産期・新生児医学会より多くの会員の皆様の御参加・発表を頂き、誠にありがとうございました。海外からの参加者人数では、1位となる64名に参加をいただくことが出来ました。特に大会２日目のGala dinnerでは、日本から高円寺阿波踊りの朱雀連の皆様とともに会場全体で踊ることで、2020年の日本開催をアピールすることが出来ました。今回は参加していただいた若手発表者の方々から参加報告を集めました。多くの若い先生がかけがえのない経験をする事が出来たと信じております。

現在、FAOPS 2020 Tokyoの本格的準備を開始しておりますが、日本周産期・新生児医学会の会員の皆様のさらなるご協力により、大会を成功させたいと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

FAOPS 2020大会会長
田中　守

FAOPS 2018 若手研究者 助成応募者一覧

【助成者】10名

領域	氏 名	所 属	掲載ページ
A	瀬山 理恵	順天堂大学医学部附属順天堂医院 産婦人科	1
A	佐藤 佑	慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室	2
A	大谷 利光	慶應義塾大学医学部 産婦人科	3
A	小田 智昭	浜松医科大学 産婦人科	4
A	黒川 裕介	独立行政法人国立病院機構 小倉医療センター	5
B	森田 真知子	埼玉医科大学総合医療センター 小児科	6
B	山口 綾乃	北里大学医学部 小児科	7
B	青木 良則	国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第２部、 東京大学大学院医学系研究科小児医学講座	8
B	藤岡 一路	神戸大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター 小児科	9
C	近藤 琢也	九州大学 小児外科	10

【助成補助】22名

領域	氏 名	所 属	掲載ページ
A	倉田 奈央	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 産婦人科	11
A	萩原 有子	横浜市立大学付属市民総合医療センター 総合周産期母子医療センター	12
A	小熊 響子	順天堂大学医学部 産婦人科学講座	13
A	竹森 聖	杏林大学 産科婦人科	14
A	浦郷 康平	独立行政法人国立病院機構 小倉医療センター	15
A	村岡 純輔	宮崎大学 産婦人科	16
A	小谷 倫子	市立恵那病院 産婦人科	17
A	春日 義史	川崎市立川崎病院 産婦人科	18
A	野元 正崇	名古屋大学 産婦人科	19
A	菅 幸恵	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 産婦人科	20
A	林 優	東海大学医学部専門診療学系 産婦人科	21
A	森山 佳則	名古屋大学 産婦人科	22
B	荒木 亮佑	大阪母子医療センター 新生児科	23
B	糸島 亮	長野県立こども病院 新生児科	24
B	瑞木 匡	独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター 小児科	25
B	西田 浩輔	神戸大学大学院医学研究科 内科系講座小児科学分野	26
B	菅 秀太郎	産業医科大学病院 総合周産期母子医療センター	27
B	今西 洋介	大阪母子医療センター	28
B	岩永 甲午郎	京都大学医学部附属病院 新生児科	29
B	大西 聡	大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学	30
B	岩谷 綾香	埼玉医科大学総合医療センター 新生児科	31
C	大西 峻	鹿児島大学学術研究院 医歯学域医学系小児外科学分野	32

A retrospective study of recurrence rate of preterm birth in Japan

順天堂大学医学部附属順天堂医院
産婦人科
瀬山 理惠

この度、日本周産期・新生児医学会より若手研究者派遣助成を頂き、2018年9月23日～26日に開催されたFAOPS 2018 Manilaに参加しました。フィリピンの亜熱帯の気候はひとしお暑く、入国直後は暑さや日本との治安の違いに大変驚かされました。今回私にとって初めての国際学会の参加であり、歴史ある大きなマニラホテルの建物、アジア各国の人々が多く行き交う学会会場は私の緊張をさらに誘いました。

私のsessionではアジア・オセアニアの各国からの研究者代表５名が発表していました。私は2014～2015年の日本の周産期データベースを用いて、既往早産の有無が早産リスクとなるかを検討し報告しました。

学会に参加し、コミュニケーションツールとしての英語力向上の重要性を痛感しただけでなく、国内外問わず多くの方とお話しした中で、広い視野を持って日々臨床・研究に励むことが大切であると感じることができました。学んだことを胸に留め、今後も日々臨床・研究に励んでまいります。

A novel strategy to treat fetal myelomeningocele using human amniotic fluid stem cells

慶應義塾大学医学部
産婦人科学教室
佐藤　佑

若手研究者派遣助成のもとFAOPS 2018に参加させていただきありがとうございました。

国際学会では初の口演発表であり、大変な緊張感がありましたが、アジア・オセアニアの先生方に刺激を受け貴重な経験をさせていただきました。また、各国ごとに異なる周産期医療の現状につきましては非常に興味深く拝聴致しました。

懇親会での各国の皆様との交流も大変有意義な時間となりました。日本の阿波踊りパフォーマンスは圧巻でありましたし、人生で初めての阿波踊りを鑑賞するのみならず一緒に踊らせていただけたことは、味わったことのない感動的な体験となりました。

今回の経験をもとに、FAOPS 2020でもお力添えができます様、日々研鑽に努めて参りたいと思います。今回この様な機会を与えてくださりました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

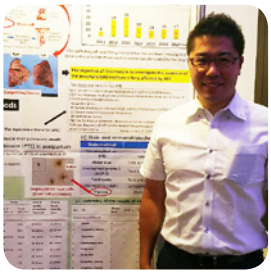
The therapeutic effects of human amniotic fluid stem cells on the chronic phase of neonatal hypoxic-ischemic encephalopathy

慶應義塾大学医学部
産婦人科
大谷 利光

この度、「若手研究者派遣助成」をいただき、FAOPS 2018に参加しました。私は、「The therapeutic effects of human amniotic fluid stem cells on the chronic phase of neonatal hypoxic-ischemic encephalopathy」という発表を行いました。内容は、低酸素性虚血性脳症に対する羊水由来の自己間葉系幹細胞による治療法開発を目指して、モデルマウスを用いて治療効果を検討したものです。フィリピンの新生児科の先生より面白いアイデアとご講評いただき励みになりました。他には、主に「早産」分野の講演を聴講しましたが、各国の早産の状況や今後の早産予防に関する検討課題を学べました。

最後になりましたが、「若手研究者派遣助成」のお陰で貴重な体験をすることが出来ました。ありがとうございました。

The evidence of anaphylactoid reaction in lung affected by amniotic fluid embolism



浜松医科大学
産婦人科
小田 智昭

このたびは日本周産期・新生児医学会から若手研究者助成金のご交付ありがとうございました。私はポスターで「The evidence of anaphylactoid reaction in lung affected by amniotic fluid embolism」を発表しました。自由討論形式で参加者と議論しました。学会中に行われた講演や発表は、産科では特に切迫早産・早産、妊娠高血圧症候群に関するものが多く、羊水塞栓症についてはほとんど議論の対象になっていませんでした。FAOPSに参加しているアジア・オセアニアの国々の中でも、問題となっている周産期疾患に相違はあると思いますが、母体・胎児ともに予後の悪い羊水塞栓症について研究の発展を通して世界に発信していく必要があると感じました。

マニラでは金山理事長と行動し、世界遺産のサン・アグスチン教会を見て回り、夜はカオスな街中を通り抜けて風呂付きマッサージ店で癒され、楽しいオフも過ごすことができました。Gala dinnerでは阿波踊りを参加者全員で踊り、次回FAOPS 2020東京開催に弾みがつきました。

Analysis of obstetric complications and outcomes related to singleton pregnancy after embryo transfer using a large scale perinatal registry in Japan

独立行政法人国立病院機構
小倉医療センター
黒川 裕介

FAOPS 2018 Manilaは私にとって初めての海外学会への参加であった。残念ながら私の発表はポスターであったが、数人から積極的に質問されたため、戸惑いながらも何とか英語で答えることができた。その後は、日本から出席された他施設の先生方と交流でき有意義な時間を過ごした。

FAOPSのメイン会場の雰囲気は、日本の学会とまるで違っていた。とても華やかであり、軽食をとりながら、いくつもあるモニターを見ながら、発表をストレスなく聞くことができた。内容については省略する。

マニラの雰囲気は、大統領のおかげか比較的治安は良い印象を受けた。しかしたくさんのstreet childrenを見て実際にお金をねだられると、とても危険・異質に感じられ、初日はホテルの中で大人しく過ごさざるを得なかった。しかし２日目以降はホテルの外でそれなりにフィリピンの夜を楽しむことができた。

今回このような貴重な経験をさせて頂き、日本周産期・新生児医学会関係各所の方々に感謝致します。

Risk factors for bubbly and cystic appearance in bronchopulmonary dysplasia of neonates exposed to chorioamnionitis

埼玉医科大学総合医療センター
小児科
森田 真知子

2018年９月にマニラで開催されたFAOPS 2018に参加させていただきました。日本をはじめ、台湾・韓国・バングラデシュ・オーストラリアなど様々な国の参加がみられました。

初日のPre Congressは講義＋ワークショップ形式で、お互いの国の違いを話し合いながら進み、とても勉強になる１日でした。２日目からの本学会では、様々な分野の発表やレクチャーを通じて他国の周産期医療の実際を学ぶことができました。

学会の合間には、観光をしたり、FAOPS 2020に向けて阿波踊りで日本をPRしたり、そしてその中で日本の他施設の先生方とも親睦を図ることができ、とても嬉しく思いました。

今回初めて国際学会へ参加させていただいたことは、次のステップへ向けて貴重な経験となりました。しかし、知識はもちろんですが、英語力の面でもなかなか議論に参加できず悔しい思いをしましたので、英語で堂々と発表し質疑応答へ参加していた先生方を目標に、今後も自己研鑽に努めていきたいと思います。

最後に、今学会への参加・発表の機会を与えて下さり、ご指導して頂いた先生方をはじめ、学会の方々に深く感謝申し上げます。

Trends in morbidity and mortality in 22-24 weeks gestational age from 2003-2012: a retrospective cohort study in Japan

北里大学医学部
小児科
山口 綾乃

去る2018年９月23日～26日に開催されましたFAOPS 2018 Manilaに、参加する機会をいただきました。私にとって初めての国際学会ということもあり、特に初日は豪華な会場や今までの学会とは異なる雰囲気に圧倒されてしまいました。それでも、開催期間中には実に沢山の方のお話を伺うことができました。最先端の研究内容を共有することもあれば、当然ですが地域ごとに周産期・新生児医療が抱えている問題や課題が様々である点も、学会参加を通じて改めて感じました。日々の生活では、つい目先の問題だけにとらわれがちですが、今行っている医療を別の視点で見直す良い機会となりました。

2020年には日本での開催が予定されておりますが、微力ながら学会の成功にお手伝いできればと思います。最後に、この様な機会をいただきましたことを深く感謝いたします。

LOX-1 mediates inflammatory activation of microglia under hypoxic-ischemic conditions

国立精神・神経医療研究センター神経研究所
疾病研究第２部、
東京大学大学院医学系研究科 小児医学講座
青木 良則

Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies (FAOPS) 2018が2018年9月23日から26日の期間、フィリピン国マニラ市で開催された。私は、日本周産期・新生児医学会より助成をいただき参加することができた。私の“LOX-1 mediates inflammatory activation of microglia under hypoxic-ischemic conditions”という演題がFree paper sessionに選ばれ、口演発表する機会を得た。この発表では、新生児低酸素性虚血性脳症との関連が報告されているLOX-1が、低酸素虚血下のミクログリアにおけるサイトカイン産生などの細胞傷害プロセスに関わっているという内容であった。日本からの参加者も多く、私のセッションでは発表者７人中５人が日本からの参加者であった。また、基礎研究の発表も多くあり、広く勉強する機会を得た。

発表前日に発表時間の短縮の連絡があり、当日も質疑応答の時間がほとんどなかったのが残念であったが、発表後に海外の方からも意見をいただき、有意義な学会となった。

最後に、今回助成をしていただいた日本周産期・新生児医学会に感謝する。

The protective role of trained immunity against lethal sepsis in neonatal mice

神戸大学医学部附属病院
総合周産期母子医療センター 小児科
藤岡 一路

この度日本周産期・新生児医学会の若手研究者派遣助成を頂き、20th Congress of the FAOPS in Manilaに参加させていただきました。学会場はマニラホテルという立派なホテルでしたが、敷地内に入る前に車両検問があり、またホテルに入る際には毎回金属探知機の検査があるなど、日本とは社会情勢が異なる国にきているのだということを肌で感じました。

また、講演の開始ごとに雰囲気を盛り上げるBGMが流れ出したり、講演会場のテーブルで食事が提供されたりするなど、アメリカやヨーロッパの国際学会とは趣を異にした学会であり、とても面白かったです。参加者は助産師さんを含め、多くのコメディカルが参加されていたようで、多方面からの議論がとても勉強になりました。

今回の経験を糧に2020年度の東京開催にあたっては、海外からのお客様に喜んでもらえるような学会になるよう協力できればと強く感じました。今回は貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

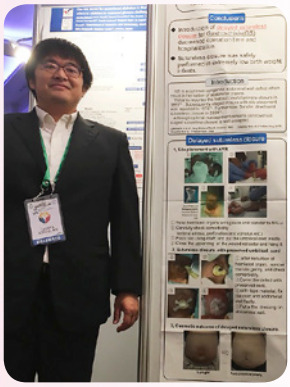
Operative method for gastroschisis in Kyushu University

九州大学 小児外科
近藤 琢也

第20回Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies (FAOPS)がフィリピンの首都マニラにて開催されました。本学会に参加いたしましたので報告いたします。

9月24日(月)、ポスターセッションにて、「Operative method for gastroschisis in Kyushu University」のタイトルで発表致しました。

内容は、当科における腹壁破裂に対する治療戦略の変遷とその結果をお示しし、治療方針に関する考察の発表でした。貼付ポスターの周囲に待機しておりましたが、残念ながら会場からの質問はいただけませんでした。しかし、小児外科系の発表は全体的に少なかったことから、日本の小児外科のアピールにつながったものと考えております。今回は、このような機会をいただき誠にありがとうございました。



The perinatal outcomes in women with type 1 diabetes mellitus

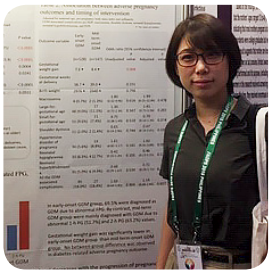
独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター
産婦人科
倉田 奈央

今回はマニラで開催されたFAOPS 2018に参加させていただきました。アジア・オセアニアの各産婦人科医、新生児科医、助産師が集い、シンポジウムや各施設で行われている診療の報告などを拝聴し、普段先進国の日本で研修している自分としては、新しい発見や知識の習得ができ、楽しく勉強できました。特に、早産のワークショップに参加し、新生児の蘇生やケアの方法について、実際に各国の先生方とお話ししながらデモンストレーションできたことは良い機会でした。

また、懇親会では、各国の伝統舞踊の披露や紹介があり、FAOPS 2020へ向けて、東京の紹介、和太鼓の演舞も盛大にもりあがりました。

今回の参加から、新たな研究のヒントを得ることができ、次回の学会へ向けさらなる周産期分野の発展につなげることができるよう、日々の診療や研究に励んでいく所存です。

Are treatment interventions for early onset gestational diabetes based on the international association of diabetes and pregnancy study group criteria effective?



横浜市立大学付属市民総合医療センター
総合周産期母子医療センター
萩原 有子

このたびは国際学会へ参加する貴重な機会をご支援いただき、ありがとうございました。

学会全体の印象として、医師のみでなく、コメディカル、またそれぞれの教育分野に関わる人々の参加も多く、アジア圏において、周産期分野は非常に注目を集める分野であると感じました。

個人的に聴講内容で特に印象に残っているのは、出生前診断についての発表です。宗教や経済事情から様々な選択があり、私が日常的に行っている診療や判断の常識が、異なる背景をもつ人の中では一般的ではないと感じ、改めて周産期分野の難しさを感じました。各国のプレゼンテーターが堂々と発表する姿、またそれに対し、意見や質問を述べる姿は今後の勉強の励みにもなりました。マニラ独特の雰囲気も楽しむことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

この経験を今後の診療や学術活動に活かしていくべく、さらに精進していく所存です。

Effectiveness of delayed absorbable monofilament suture in emergency cerclage

順天堂大学医学部
産婦人科学講座
小熊 響子

今回は日本周産期・新生児医学会から多大な援助を頂き、全日程のうち２日間の参加ではありましたが、私にとって初めての国際学会となる第20回アジア・オセアニア周産期学会で口頭での演題発表をさせて頂きました。演題発表が行われた会場では円卓の席が用意されており、いつでも参加者で溢れてどのセッションでも満席でした。自身が発表させていただいたセッションもほぼ満席となっており、とても緊張したことを覚えています。どの演題に対しても質疑応答が活発に行われており、多くの議論へ発展していました。国内の学会ではこのような活発な演題発表や質疑応答は自身では経験したことがなく、英語への不安だけでなく研究内容に対する探求心や理解度にも不安を感じましたが、滞りなくすべてのスライドを発表することができました。国際学会への参加だけでなく演題発表までさせていただき、今後の産婦人科医人生の大きな経験となりました。援助頂いたことに感謝し、今後も学会活動に意欲的に参加できるよう努力していく所存です。改めて多大なご援助に感謝申し上げ、参加報告とさせて頂きます。ありがとうございました。

Obstetrics and gynecology simulation lecture for medical students and junior residents

杏林大学
産科婦人科
竹森 聖

2018年9月にフィリピンのマニラで行われた第20回アジア・オセアニア周産期学会に、助成補助を頂き参加させていただきました。私にとって初めての国際学会への参加であり、日本との違いに驚かされることが多かったです。

発表内容においても、切迫早産に対するエラストグラフィー等、日本ではスタンダードではない検査や、各国の医療現状の違いなどについて学ぶこともでき、国際学会に参加することへの意義を痛感しました。

この様な機会を下さった学会に深く感謝申し上げます。

The prenatal diagnosis of a covered cloacal exstrophy

独立行政法人国立病院機構
小倉医療センター
浦郷　康平

国際学会への参加の機会を与えて頂き、ありがとうございました。産婦人科６年目で国際学会への興味はありましたが、今回、当院の他の先生が参加することもあり、私も一緒に演題を発表させて頂きました。これを機会に英語も勉強していこうと改めて思いました。

会場がやや空港から離れたところで治安に少し不安がありましたが、ホテル内は安全で快適でした。しかし、周囲はストリートチルドレンも多く、ホテルからは出ることができず、学会に集中できました。アジアの周産期管理や新生児の現状が把握でき、世界の先進的な部分に触れることもでき、また日本の周産期・新生児管理のすごさを改めて実感する事ができました。

学会は、セレモニーのような印象でお祭りのような雰囲気で圧倒されました。フィリピンの産科の先生とも交流でき、国際交流にもさらに興味がもてました。

2020年も参加させていただければと思います。

Characteristics of perinatal outcomes with intra-amniotic infections born > 34 weeks of gestation

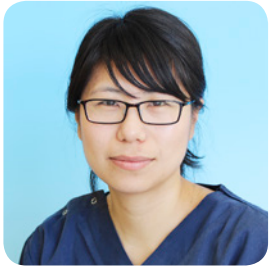
宮崎大学
産婦人科
村岡 純輔

私はFAOPS 2018に参加し、子宮内感染と胎児心拍数モニタリングに関して、日本産科婦人科学会・周産期委員会のアンケート調査結果を利用させていただきながら報告しました。研究としてはまだまだ深める余地があり、また臨床での活用という視点では多くの課題が残されていると感じました。

学会では、FAOPS 2020の東京開催へ向けてスタッフの熱意、一体感を感じました。私たちも何か少しでもお手伝いできれば、という思いです。

関係者の皆様には、このような素晴らしい発表の機会をいただき、この場をかりて深謝いたします。

The risk factor for gestational diabetes: Is there any complementary effect in addition to universal glucose challenge test?



市立恵那病院
産婦人科
小谷 倫子

今回はFAOPS in Manilaへ参加させていただきありがとうございました。

GDMのスクリーニングについて確立された診断基準はなく、私たちは糖尿病リスクファクターと75gOGTTを合わせることで、妊娠中期のGDM診断が効果的にできるのではないかと前向きコホート研究を行いました。妊娠中期の50gGCTで基準値以上であったものにOGTTを施行し、GDMと診断されますが、GCTで基準値以下であったものでも、リスクファクターがあるものにはOGTTを行いました。

結果、GCT陽性のGDM患者は全体の7.6%であったのに対し、GCT陰性でリスクファクターを持つもので、GDMと診断されたのはたった0.7%であったため、リスクファクターを組み合わせることはGDM診断に有用ではないと考えました。

私たちが行った研究は、何気なく診療を行っていれば、もしかしたら何の疑問もなかったかもしれませんが、今回の研究を行うことで現行のGDM診断に妥当性を持たせることができるのではないかと思います。今後もGDM診断について研究を深めていきたいと考えております。

今回はこのような貴重な機会を与えてくださった長崎医療センター部長の安日先生及び共同研究者である医療センターの先生方、当院伊藤先生、FAOPSに関わる日本周産期・新生児医学会の皆様に深く感謝致します。

Surgical and perinatal outcomes of the pregnant women underwent total laparoscopic cystectomy in our hospital

川崎市立川崎病院
産婦人科
春日 義史

フィリピンは個人的に行かない国であろうこと、学会からの補助が出ることから、マニラを訪れる決心をした。また、当院では多くのフィリピン人患者を診ていることもあり、興味を抱いたのも事実である。学会はホテルの優雅さも相まって、非常に華やかな会であった。残念ながら、英語力に自信のない私には外国人の友人を作ることはできなかったが、日本から訪れている先生方と話す機会に恵まれて、とても有意義であった。助成制度が他国を訪問するきっかけになったこともあり、今後はFAOPS以外の国際学会に対しても補助の対象が広がり、我々が様々な場に参加できるようなバックアップをお願いしたい。

Intra-aortic balloon occlusion could reduce peripartum hemorrhage

名古屋大学
産婦人科
野元 正崇

若手研究者派遣助成によるFAOPS 2018 in Manila, Philippinesへの参加機会を与えて頂きありがとうございました。当時、国際学会の口演発表が連続し、発表準備と渡航準備のタイトなスケジュールであったことが思い出されます。今回私は初めてのFAOPSで、『全前置癒着胎盤における大動脈内バルーン留置（IABO）の有効性』について口演発表しました。発表後の質問では緊張のあまり思考停止に陥りましたが、周囲の先生から通訳のヘルプを頂き、なんとか発表を終えることができました。他の講演ではオーストラリアでの妊産婦死亡として産後うつの問題を訴える発表があり、アジア・オセアニア地域でも周産期メンタルヘルスが重要な課題となっている点は、今後産科医としてさらに積極的に関わる必要があると感じました。一方、日本で診療することがない稀な血液疾患合併妊娠の報告や結合双胎などの貴重なMRI画像などは衝撃的かつ非常に興味ある内容でした。

最後に飲食には十分注意していましたが、後半で感染性腸炎を発症し痛い思い出のフィリピンとなりました。今後に向け、英語力、プレゼン力とともにお腹の強さも磨きたいと思っております。

Effect of the pregnancy prolongation of preterm premature rupture of membrane by ACOG guidelines

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター
産婦人科
菅 幸恵

FAOPS 2018 in Manilaに参加しました。Pre-congress workshopから参加させていただきました。レジデントや助産師とともに、RDSの診断方法やNon-invasive respiratory supportの適応について意見を交わしたり、フィリピンの新生児蘇生について実習を行ったりと、産科医の私にとってはとても新鮮でした。また、参加各国の新生児医療の現状などもうかがうことができ、我々指導医にもレジデントにも有意義な時間であったと思います。学会の発表内容で興味を持ったのは、分娩時の緊急対応についての発表の質疑応答でした。日本でもいくつかの産科シミュレーションコースや医療安全対策を行っていますが、FAOPSの参加国の中でも、国によって対応できることに差がありながら、母児を守るために同じ思いでアプローチしていることが印象的でした。また、2020年の日本開催に向けて、研究課題を模索することができました。Gala dinnerでも、日本のプレゼンテーションをはじめ、学会全体の一体感を感じる趣向を凝らしてあり、とても楽しい時間でした。

Effectiveness of uterine tamponade with bakri balloon for reducing postpartum hemorrhage at cesarean section in patients with placenta previa

東海大学医学部専門診療学系
産婦人科
林 優

日本周産期・新生児医学会の若手研究者派遣助成にて、FAOPS 2018 in Manilaに参加させていただきましたので、報告いたします。

子宮内バルーンタンポナーデ法は産後大量出血において考慮される治療の１つでありその有用性が多く報告されています。当院では2014年８月より前置胎盤症例の帝王切開時の止血方法としても用いています（帝切時Bakri法）。今回、前置胎盤手術時における帝切時Bakri法導入の有用性と問題点を明らかにすることを目的として、2010年１月から2017年７月の間に当院で分娩した癒着胎盤を除く前置胎盤134例に関して、帝切時Bakri法導入の前後での臨床経過を後方視的に検討しました。その結果、当院での帝切時Bakri法のプロトコールは前置胎盤の帝王切開時の出血量軽減に有用であると考えられました。また、Bakriバルーンを使用するのであれば、挿入のタイミングを逸することなく早期に行うことが、出血量の軽減等に重要と考えられました。

今回のFAOPS参加の大事な目的は、発表だけでなく、アジア・オセアニアの先生方と交流し、FAOPS 2020東京に向けて準備していくことであったと考えています。今回の若手研究者派遣助成によって日本人の参加者が多く、レセプションでも次回の開催国が日本であることを十分にアピールすることができていたと考えています。また、日本周生期・新生児医学会の先生方が企画した阿波踊りのパフォーマンスは、参加者を巻き込んで大いに盛り上がり大成功でした。もちろん個人としても最大限に交流をおこないました。

学会期間中、FAOPSの先生方、特にフィリピンの先生方のあたたかいおもてなしを感じることができました。次回開催国として、笑顔であたたかいおもてなしを行うことがどれほど大切かわかりました。

末筆ではございますが、助成補助者として補助をいただきありがとうございました。この派遣での経験を次回の東京開催に活かせるように努めます。

Reasons for giving up breastfeeding in mothers with schizophrenia and depression

名古屋大学
産婦人科
森山 佳則

この度、学会より助成いただき、FAOPS 2018に参加してまいりました。会場のマニラホテルは、首都マニラの中心から少し外れたところに位置し、東京の帝国ホテルに相当する格調高いホテルでした。会場は華やかな装飾が施され、ランチョンはコース料理、午前午後はスイーツにドリンクがサーブされ、まさにパーティといった様相でした。リラックスした雰囲気の中でもしっかりとディスカッションが展開され、日本国内の学会とは程遠いそのスタイルに度肝を抜かれました。

口演・ポスターともに諸国から様々な演題発表があり、日本人医師が異国の地で活躍する姿が非常によい刺激になったと同時に、日本にいては見えてこない世界の様々な問題を再認識する機会となりました。日本の周産期医療は世界でもトップレベルですが、だからこそ世界へどんどん輸出していく責務があると強く感じた次第です。FAOPS 2020 @ Tokyoはまさにそのための場となることを願ってやみません。

Evaluation of long-term prognosis of very low birth weight infants with severe fetal growth restriction

大阪母子医療センター
新生児科
荒木 亮佑

2018年９月23日から26日にかけてフィリピン（マニラ）において開催されたFAOPSに参加した。自身は重度の子宮内胎児発育不全を伴い出生した児の長期予後に関する報告をポスター発表で行った。

他の発表に関しては、日本からの発表が多くいずれも興味深いものであった。

中でもhuman amniotic stem cell関連の話題はこれまでに聞いたことのない内容であった。重症新生児仮死に伴う低酸素性虚血性脳症に対するものや脊髄髄膜瘤に対する胎児治療にhuman amniotic stem cellを用いた報告があり、今後の更なる研究及び今後の臨床応用などの可能性も期待された。

またシンポジウムの非侵襲的呼吸サポートに関する口演では、新生児領域で一般的によく用いられている非侵襲的陽圧換気による呼吸サポート方法の解説に加え、近年新生児領域でも用いられるようになってきたNIV-NAVAについても言及された。韓国からの発表で、現在CPAPとNIV-NAVAを比較したRCTが進行中とのことであり、結果の報告が期待される。

Non invasive neutrally adjusted ventilatory assist (NIV-NAVA) versus nasal intermittent positive-pressure ventilation (NIPPV) after extubation in preterm infants less than 30 weeks of gestational age

長野県立こども病院
新生児科
糸島 亮

Non invasive neutrally adjusted ventilatory assist (NIV-NAVA)の有効性の臨床的検討についてポスター発表を行いました。今回は、30週未満の早産児に対するNIV-NAVAとNasal intermittent positive-pressure ventilation (NIPPV) の比較にて、抜管成功率などについて検討しました。症例数の問題か有意差は出ませんでしたが、抜管成功率はNIV-NAVA群でより高く、早産児へのNIV-NAVAの有用性を感じさせる結果でした。

残念ながら質問などはほとんどなく、同じような内容の学会発表もなかったため、呼吸管理方法として発展途上にある技術だと感じました。ただ、非侵襲的呼吸管理の教育講演を担当されていたKim先生からは、NAVAやNIV-NAVAの紹介や、前向き臨床研究が進行中であるとのお話を頂きました。日本でも、当院を含めて多施設共同での臨床研究が検討されており、我々としても今後の励みになりました。

ポスター発表の運営方法には改善の余地があるように感じましたが、皆さんに親切に対応していただき居心地の良い学会でした。2020年の日本での開催が楽しみです。

Anatomical dead space increased in neonates receiving mechanical ventilation with respiratory disorders: volumetric capnography based on capnograms and waveforms of ventilators

独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター
小児科
瑞木 匡

今回、第20回FAOPS in Manilaに参加させていただき、誠にありがとうございました。御支援いただいた日本周産期・新生児医学会の皆様に心から御礼を申し上げます。

由緒あるホテルでの開催であり、非常に雰囲気の良い学術集会だったと思います。マニラのスタッフの皆様には非常に親切にしていただき、同テーブルの他国の方々には暖かく迎えていただきました。

学術集会で感じたことは、各国の地域格差と、日本の周産期医療のレベルの高さです。各地域の周産期死亡率の統計をみると、日本が圧倒的に良好な成績であることは一目瞭然でした。日本の周産期医療の素晴らしさに対して会場の皆様が拍手して下さった時は、日本の周産期医療に携われることを非常に誇りに思いました。

今回の貴重な経験を生かし、FAOPS 2020 TOKYOでも何か協力させていただきたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

Spontaneous congenital depressed skull fracture: report of three cases

神戸大学大学院医学研究科 内科系講座
小児科学分野
西田 浩輔

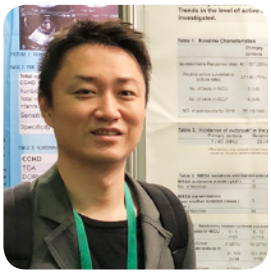
2018年９月23～26日の４日間にわたりフィリピンのマニラで開催された、アジア・オセアニア周産期学会（FAOPS）に参加させていただきました。

初めてのフィリピンであり、治安など不安なところがありましたが、口演会場は円卓に座席が配置され、飲み物や食事をサーブしてもらいながら口演を聞くという、今まで経験したことのないパーティーのような雰囲気があり、とても楽しめました。

私は、「先天性頭蓋骨陥没骨折の３例」の口演と、「新生児偽性低アルドステロン症」のポスターの２題を発表させていただきました。初めての国際学会での口演発表であったため、いくつかあった質問に対して英語で説明することが難しく、自分の未熟さを理解でき、とてもいい経験となったと思いました。今後も、研究、語学の面に関しても精進していきたいと思います。

このような貴重な機会を与えていただき、援助までしていただいた日本周産期・新生児医学会に深謝いたします。ありがとうございました。

Management of active surveillance and frequency of outbreak in neonatal care unit : A nationwide survey in Japan.



産業医科大学病院
総合周産期母子医療センター
菅 秀太郎

片道５時間。福岡からマニラまでは随分近い。しかし、フィリピンの文化も医療水準も知らないので、気持ち的な距離は非常に遠かった。学会でもなければ行く機会はないだろうという興味が参加への後押しだった。空港から学会会場ホテルまではタクシー移動で、10kmほどの距離に60分前後を要する。会場は立派なホテルだったが、セキュリティチェックをして入るなど異様な雰囲気だった。学会場はまるで結婚式のような円卓スタイルだった。

今回私は、新生児臨床研究ネットワークからの研究助成で、日本における監視培養の活用、多剤耐性菌のアウトブレイクについて発表した。主に、日本からの発表は基礎研究の内容が多く、その他の国からの発表は臨床研究での発表が多かった。日本では臨床研究法が開始されたことからもこの傾向は続くのだろうか。

参加者・参加国が少なく、演題のテーマに一貫性がなく内容がバラバラな感じが気になった。当然、参加者集めでも苦労されたことだろうし、開催側の苦労も垣間見えた。それは、まだ各国での目指すところが異なり、つまりは医療水準が違うということに依ることが大きいように思える。2020年の東京開催にはこの学会にしかできないことを期待したい。

Fluctuation of SpO_2 is a significant risk of severe retinopathy of the prematurity

大阪母子医療センター
今西 洋介

私はFAOPSに初めて参加し、とても刺激を受けました。

参加登録に関して少しトラブルがあり事務局とのやり取りをしなければならず、参加前から自分の英語力を試される結果となりました。

会場ではアジア各国の発表を聞きました。特に周産期死亡率が日本と数十倍異なる国々からの話は、あまりに日本とインフラの状況が異なっていて、日本の前時代の話を聞いた感覚に陥りました。私は日本の新生児専門医として、日本の新生児学の発展に関して、異国の地マニラにおいて改めて日本の先代の新生児科医に敬意を抱きました。

国内施設の発表では神戸大学の藤岡先生による発表が受賞に値するものであり、そのプレゼンテーションがとても勉強になり特に印象的でした。

次回日本で開催されるFAOPSでは、少しでも学術的に貢献できるように日々の診療で研鑽していこうと思いました。

Simulation-based educational tool and system development for remote support of neonatal resuscitation that can be applied to clinical practice

京都大学医学部附属病院
新生児科
岩永 甲午郎

京都大学病院からは２名がフィリピンで開催されたFAOPS 2018に参加しました。ポスター発表では、「新生児蘇生術の遠隔支援のためのシミュレーション教育ツールとシステム開発」と題した発表を行いました。その内容は、学習効果の高い新生児蘇生の学習支援システム機器を低コストで開発することと、実際の現場での運用に関するものでした。

当日の会場ではシンガポール、インド、中国の新生児専門医が私たちの機器に興味を持ち、議論をする機会を得ました。その際に、多くのアジア諸国がNRPアルゴリズムに従って新生児蘇生法を実施していると聞き、我々の学習支援システムは教育資源が十分でない発展途上国で需要が高いかもしれないという感覚を得ることができました。

この学会での発表経験は、今春から開始予定であるブータンでの遠隔シミュレーション訓練実験を進めるための良いステップとなりました。次回のFAOPSで他のアジア諸国との遠隔シミュレーショントレーニングの結果について報告できるように準備を進めています。

今回はこの会議に出席する機会を与えていただきましたことを、心より感謝申し上げます。

The possibility that dopamine and dobutamine exacerbate preterm infants with the chronic lung disease

大阪市立大学大学院医学研究科
発達小児医学
大西 聡

今回FAOPS 2018 in Manilaに、日本周産期・新生児医学会の援助を頂き、学会発表させて頂きました。マニラは思っていた以上に近代化が進んで来ており、活気に満ちた街でとても刺激的な印象でした。

学会は、由緒あるマニラホテルにて行われました。発表は、新生児慢性肺疾患に対する薬物療法と新生児低酸素性虚血性脳症に対する自己臍帯血幹細胞治療の自験例を報告させて頂きました。会場で海外の方とお話しすることができ、今後の研究にも役立つ質問をいただきました。

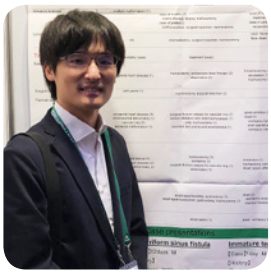
FAOPS 2020東京に向けて、今後もアジア・オセアニア地域との交流が深まるように、微力ながら参加させて頂きました。日本周産期・新生児医学会のみなさまの援助にて参加させて頂き本当に有難うございました。

Efforts to expand the indications of intravenous paracetamol to include treatment of patent ductus arteriosus in Japan

埼玉医科大学総合医療センター
新生児科
岩谷 綾香

フィリピンのマニラで行われたFAOPSに参加させていただきました。前日のPre-congress workshopである「Preterms in distress: New models of care」の中では、モデルやデモ機器を実際に使用しながら自施設では自身が直接関わることの少ないカンガルーケアや諸国での呼吸管理方法の選択について触れ、意見を伺うことができました。アジア圏での公衆衛生から実臨床まで幅広い分野のセッションがあり、より身近なNon-invasive respiratory supportの管理方法や、自身にとっては目新しい「在胎29週の早産児に母乳の匂いをかがせて経管栄養を進めると経腸栄養の確立までの期間が短くなる」というFrank Harry Bloomfield教授による新生児の栄養管理における嗅覚・味覚の意義に関する研究に興味を惹かれました。自身のポスター発表に関しては、インドメサシンとアセトアミノフェンの腎機能障害・著効率の比較について短い意見交換を行うのみでしたが、全日程を通して有意義な経験をさせていただきました。

Strategy of neonatal airway obstruction with team medical care



鹿児島大学学術研究院
医歯学域医学系小児外科学分野
大西 峻

今回初めてFAOPSに参加させて頂き、鹿児島大学小児外科における新生児気道疾患についてのまとめを発表しました。

アジア・オセアニア地域は経済発展の速度に大きな差異があり、地域によって周産期新生児医療の発展の程度も大きく違う印象でした。経済発展の著しい国では日本と変わらないかそれ以上の医療体制がありましたが、一方でまだまだ医療がいきわたっていない国も多くあるようでした。

また参加者の職種も多種多様でした。日本では学会に参加する職種は医師が多い印象ですが、看護師（NS）や助産師（MW）が多く、医師よりも多かったように感じます。職種に関係なく最新の情報を学会で手に入れようとする意識の高さを感じました。

学会が国際学会への参加を促してくれるような制度は、自分のような経験の浅い者にとっては非常に有難く、貴重な経験となりました。ありがとうございました。

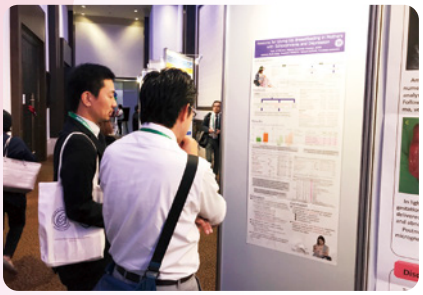
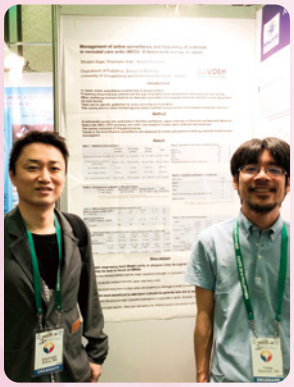
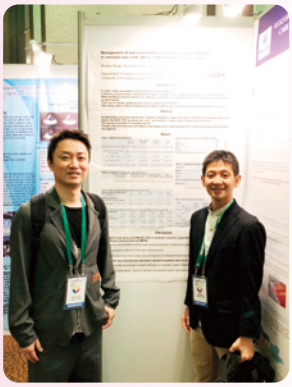



Photo gallery of "FAOPS 2018 Philippines"